

今日的な課題に適応プロジェクト

5年 学級活動 「SNSの正しい使い方」

◎授業について

9月13日(金)に第3回となる校内での研究授業を行いました。題材は、「SNSの正しい使い方」です。高学年になり、携帯やタブレットを持ち始めた児童が増えてきています。また、SNSの利便性は非常に高く、これからの社会生活では、必要不可欠な存在です。現在、児童は情報を受信する側であり発信することはほとんどありません。しかし、興味・関心の高さから、近い将来児童が情報を発信する側になった時、発信して良い情報と発信してはいけない情報を取捨選択できるようにしていきたいと考えています。SNSの特性を理解することで、有効な活用法を身に付け、児童の生活をより豊かなものにすることを目指したいと思い本時の授業を行いました。



【導入(課題の把握)】先月行われていた、2024年パリオリンピックでの誹謗中傷問題を取り上げました。SNS上で書き込まれた実際の誹謗中傷の件数や書き込み内容、写真を提示することで、誹謗中傷がどれほどに人を傷つけていることであるかを想像できるようにしました。また、誹謗中傷の中には、児童も利用しやすいコミュニケーションアプリ内での書き込みもあることから、身近なアプリが多くの人を苦しめている現状につながっていることを捉えやすくしました。

【展開(原因の追究)】コミュニケーションアプリのトーク画面を模した教材を使用しました。「〇〇を無視しよう。」のような言葉が送られてきた場合、どのように相手に返信をするかということを考えることで、他人事ではなく自分事として捉えさせやすくしました。また、リアルタイムで会話が進む様子を児童に見せることで、実際に自分へ向けてメッセージがきている臨場感を味わわせ、より緊張感をもって内容を考えることができました。

【展開(課題解決等の話し合い)】上記の課題に対して、どのように返信をするのかをグループになって考えました。「だめだと返信する。」「返信できないかもしれない。」「親に相談すると思う。」などの意見が出てきました。班で話し合ったことを全体で共有することで、様々な考えに触れ、思考を広げることができました。

【終末(個人目標の意志決定)】話し合った内容を踏まえて、自分のめあてを考え、カードに記入しました。「自分だけで難しいことは、周りの大人に相談する。」「本当に送ってよい言葉か考えてから送信する。」など、学習を生かして、自分のめあてを考えることができました。

☆指導・講評



○スマートフォンを多くのこどもたちが持っているからこそ、チャットのやりとりが生きた。リアルでとてもよい。

○発表した児童だけではなく、周りの子たちの思いを引き出せるような雰囲気作りがとてもよかった。

▲事前アンケートの活用の仕方について検討する必要がある。アンケート結果を最初に提示するだけではなく、今回の場合は、誹謗中傷の話の後に結果を提示することで、児童が自分事として捉えやすかったかもしれない。

▲後半の意思決定の部分を自分の課題と照らし合わせて考えていくために、意思決定の前にアンケート結果をふり返ったり、めあてに対して具体的な場面を設定して書かせたりしていくとよい。